

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：国際教育・協力センター	担当部局：国際教育・協力センター
大項目	7 国際交流 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。	
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性	
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性	
	(KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）	
小項目	7.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。	
要素	(KG1) 国際理解のための教育	
	(KG2) 国際協力の実践	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 海外協定大学を2013年度末に150大学に拡大し、世界の多くの地域・国から交換留学生250人を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。	→海外協定大学数および受入交換留学生。	A→C に変更
2. 海外からの推薦入試など入試制度を改革し、学部、大学院において2013年度末に定員の3% (713人) の外国人留学生を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを実現する。そのために、宿舍提供システム整備、ワンストップサービスの提供と奨学金制度を整備する。	→外国人留学生数、宿舍提供数、外国人留学生へのサービス部門の整備および奨学金制度改革の有無。	A→B に変更
3. 英語による授業のみで卒業・修了できるコースを学部、大学院にそれぞれ1コース以上設置し、世界に開かれた大学を実現する。	→英語による授業のみで卒業・修了できるコースを提供する学部、大学院数。	A→C に変更
4. ダブルディグリー制度を2013年度末までに3学部、5大学院に拡充し、世界の大学との教育・研究連携強化を実現する。	→ダブルディグリー制度を有する学部、大学院数。	A→C に変更
5. 海外拠点も2013年度末までに3箇所以上設置し、海外との連携交流ネットワークを構築する。	→海外拠点数。	A→B に変更
6. 国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムを2012年度末までに構築し、国連および国際機関等の法人との連携強化を実現する。	→国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムの構築の有無。	A→C に変更
7. 海外への学生派遣プログラムを拡充し、2013年度末までに900人の学生を派遣する。	→海外への派遣学生数。	A→C に変更
8. 客員教授制度を改革し、2012年度から新制度による外国人教員の受入を2009年度比50%増とし、教育のグローバル化と国際間での共同研究を推進する。	→客員教授制度を改革の有無と客員教授受入数。	A→D に変更
9. 教員の国際化を推進し、2013年度には外国人教員比率を全体の12%以上とする。	→外国人教員比率	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 7.0.1	(現状説明) 海外協定校数は2009.5/1時点で90大学・組織が2010.5/1現在110大学・組織と増加した。受入交換留学生は、2008年度108人が2009年度は、世界経済不況もあり、キャンセルが相次ぎ106名と減少した。英語による授業のみで卒業できるコースを2011年度から国際学部に設置するため、業務を進めている。
☆ 小項目 7.0.2	(現状説明) 学部外国人留学生数は、2010.5/1現在383人と前年から45人増加した。大学院生含めると2010年度500人となった。外国人留学生へのサービス部門の整備では、西宮上ヶ原キャンパスの国際教育・協力センター内にそれまでの国際教育・協力課に加え、留学生総合支援課を設置した。ダブルディグリー制度を社会学部、国際学部に設置する業務を遂行中。海外拠点は、中国・吉林大学およびカナダ・トロント大学ビクトリア大学内にそれぞれ設置した。
☆ 小項目 7.0.3	(現状説明) 国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムの構築のため、数大学と折衝してきたが実現までのハードルが高く、現在東京の1大学内で検討中である。海外への派遣学生数は、大学院生を含め2008年度391人(学部385人、研究科0人、国連ボランティア6人)から2009年度431人(学部426人、研究科1人、国連ボランティア4人)と増加した。

☆ その他 客員教授制度の改革は、2010年秋に提案する。
外国人教員比率は、2010.5/1現在12.5%（全教員数665人中、83名）と目標を上回った。

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【全学部】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	2010	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	50	59	69	71	78	97		
指標2	国際交流協定締結国数		国	19	21	21	23	26	28		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	14	16	19	16	17			
		外国人留学生	正規	人	324	337	339	329	338	377	
			交換	人	52	72	81	104	94		
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.8	1.9	1.8	1.7	1.7	1.8	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.3	0.4	0.4	0.6	0.5		
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	17	28	18	27	8					
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	14	13	15	11	12			
		人 数	長期	人	139	117	159	148	142		
			短期	人	195	206	249	237	284		
		在籍学生比率	長期	%	0.8	0.7	0.9	0.8	0.7		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		1.1	1.1	1.4	1.3	1.4				
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	4	1	8	1	5			
		短期	人	21	30	16	16	12			
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	11	8	8	8	11			
		短期	人	455	403	375	468	410			
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	12	10	10	6	4			

注) 2009協定締結機関数には産業研究所1機関、言語教育研究センター3機関含む。

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換は正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

注) 指標3・4・5・6について

学部、センター等を合計した人数とする。

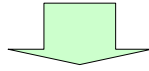
注) 指標1について

大学院の数字は含まない。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	トルコの大学との交流が始まった。これを機に交流協定を締結する予定。
小項目7.0.2	国際学部において海外からの推薦入学が始まった。それらの学生への宿舎提供などのサービス（渡日前含む）も開始した。
★小項目7.0.3	国際理解（国際協力含む）のため、「留学とキャリア設計」、「さまざまな職業を通じた社会貢献」の2科目を開講した。 JICA兵庫が受入れる研修プログラムのジェネラルオリエンテーションを初めて受注した。
その他	今夏、海外拠点を開設した中国・長春市、カナダ・トロント市で、シンポジウム（フォーラム）を実施する。



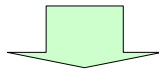
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目7.0.1	協定校関係では、すでに増加した韓国、台湾等以外の国の大学との交渉に重点をおく。
小項目7.0.2	海外からの推薦入学を拡大する。
★小項目7.0.3	国際理解（国際協力含む）のための科目提供を推進する。
その他	客員教授制度の改革主旨に沿った業務を推進する。

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目7.0.1	
小項目7.0.2	
★小項目7.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目7.0.1	
小項目7.0.2	
★小項目7.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	多種多様な実施計画を遂行することに集中する。
----------------	------------------------

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○海外協定校の増加、海外拠点の設置、海外への派遣学生数の増加、外国人教員比率が目標を上回ったことなど大変優れています。引き続き積極的な推進が望まれます。

【学内委員】

○目標が具体的に設定されており、目標達成のための施策が行われ、順調に進展しています。今後、目標については、留学生数や協定校の数のように外形的なものにとどまらず、教育効果に関するものを追加することが望まれます。

なお、進捗評価は、目標の達成を基準にしていますので、訂正する必要があります。

○各施策は順調に推移していると評価します。が、進捗評価については、評価基準に照らし合わせ、再評価をお願いします。

○目標の進捗評価については、2013年度の達成点から見て現在どのくらいまで進んでいるかという評価です。Q&A (パブリックフォルダ掲出) を参照ください。

○本進捗状況報告シートの記入の仕方については「実施要領」に記載しているところですが、まず、小項目で問われていることについて、II 《小項目ごとの現状説明》で説明をしてください。その際、掲げられた目標の説明も加えてください。従って、小項目7.0.1とその他の現状説明は、すべて小項目7.0.2の記載となります。整理をお願いします。

○小項目7.0.1の現状説明は、国際交流についての方針を(方針)と明示し内容を記載してください。

○現状説明には、特定6項目の数字をあげて説明してください。現状説明では記述の数字と特定6項目の数字が合わないものがあります。確認してください。

○効果が上がっている事項、改善すべき事項は小項目に連動していますので、各小項目ごとにそれらを記述してください。

○新基本構想、新中期計画における施策である「国際化」は重要なものであり、関西学院の源とも言えるものです。その実現が期待されます。

○学生および教員の受け入れと派遣については順調に成果が上がっているようです。ただ、各大学とも留学生の受入数を増加させており、質の低下が懸念されます。受け入れた学生に関しての品質管理が不可欠であると思われます。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目7.0.1 (現状説明) 「世界に開かれた、世界との共生をめざす関西学院大学を目指し、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。」ことを方針とする。そのため、2013年度末までに、以下の目標を達成する。

1. 海外協定大学数を150大学に拡大し、年間受入交換留学生数250人とする。
2. 正規外国人留学生を学部、大学院を合わせて定員の3%(713人)受入れる。
3. 英語による授業のみで卒業・修了できるコースを設置する。
4. ダブルディグリー制度を拡充する。
5. 海外拠点を設置し、連携交流ネットワークを構築する。
6. 国連学生ボランティア派遣日本コンソーシアムを構築し、国連および国際機関等の法人との連携を強化する。
7. 海外への学生派遣プログラムを拡充し、年間900人の学生を派遣する。
8. 教員の国際化を推進し、外国人教員比率を全体の12%以上とする。

★小項目7.0.2 (現状説明) 海外協定校数は2009.5/1時点で91大学・組織(学部78、研究科2、専門職大学院11)が2010.5/1現在103大学・組織(学部97、研究科2、専門職大学院11)と増加した。学部外国人留学生数は、2010.5/1現在377人と前年から39人増加した。大学院生を含めると2010年度494人(専門職大学院33人を含む)となった。外国人留学生へのサービス部門の整備では、西宮上ヶ原キャンパスの国際教育・協力センター内にそれまでの国際教育・協力課に加え、留学生総合支援課を設置した。受入交換留学生は、2008年度104人が2009年度は、世界経済不況もあり、キャンセルが相次ぎ94人と減少した。英語による授業のみで卒業できるコースを2011年度から国際学部を設置するため、業務を進めている。ダブルディグリー制度を社会学部、国際学部を設置する業務を遂行中。海外拠点は、中国・吉林大学およびカナダ・トロント大学ビクトリア大学内にそれぞれ設置した。

◎効果が上がっている事項

その他 今夏、海外拠点を開設した中国・長春市、カナダ・トロント市で、シンポジウム(フォーラム)を実施する。全教員における外国人教員比率は、最低目標を超えた。

◎改善すべき事項

その他 客員教授制度の改革は、2010年度秋に提案予定で進めている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数
7.0.0.S4	国別留学生数(学部別)の経年変化
7.0.0.S5	学生交流の状況
7.0.0.S6	国連ボランティア(UNITeS)参加者数

<個別的な指標>
